

群馬県適正化通信 NO.191(令和6年11月号)

飲酒運転防止等に対する行政処分強化について

酒酔い・酒気帯びなどの飲酒運転は重大事故や死亡事故に繋がる悪質な違反行為ですが、全国的にも未だになくなることがありません。本年5月には、県内でトラックと乗用車が衝突し、乗用車に乗っていた家族3人が死亡する痛ましい事故が発生してしまいました。トラック運転者からはアルコール成分が検出され、現在“過失運転致死傷罪”から“危険運転致死傷罪”への変更が求められ審理されている状況です。

このような状況の中で国土交通省は、昨今の飲酒運転事故件数が下げ止まり増加傾向にあることを踏まえ、“飲酒運転防止”に対する処分強化をはじめ“点呼の実施違反”、“勤務時間等基準告示の遵守違反”に対しても見直しを行うなど“行政処分等を行うべき違反行為及び日車数等”を以下のとおり改正し、令和6年10月1日付で施行されました。

1. 酒酔い運転・酒気帯び運転

違反行為事項			飲酒運転 100日車
酒酔い・酒気帯び運行の業務			
	初違反	再違反	
	100日車	200日車	

違反行為事項			飲酒運転 100日車
酒酔い・酒気帯び運行の業務			+
【新設】飲酒運転防止に係る指導監督義務違反 ※1			指導監督義務違反 100日車
【新設】飲酒運転防止に係る点呼実施義務違反 ※2			+
			点呼実施義務違反 100日車
			↓
			最大300日車の可能性もあり得ます！

※1 酒酔い・酒気帯び運行が確認された場合。ただし、当該運転者に係る飲酒運転防止に関する指導について、明らかに実施されていることを指導記録により事業者が証明した場合を除く。

※2 酒酔い・酒気帯び運行が確認された場合。ただし、当該運転者に係る点呼について、明らかに実施されていることを点呼記録により事業者が証明した場合を除く。

2. 勤務時間等基準告示

違反行為事項		初違反	再違反
乗務時間等告示の遵守違反 ※1	各事項の未遵守計5件以下	警告	10日車
	各事項の未遵守計6件以上15件以下	10日車	20日車
	各事項の未遵守計16件以上	20日車	40日車

違反行為事項		初違反	再違反
勤務時間等基準告示の遵守違反 ※1	各事項の未遵守計5件以下	警告	10日車
	各事項の未遵守計6件以上 当該違反について著しく遵守されていない場合は事業停止処分となることがあります。	2日車× 未遵守件数	4日車× 未遵守件数

※1 1箇月の拘束時間及び休日労働の限度に関する違反が確認された場合は、上記の件数として計上し基準日車等を算出するとともに、さらに別れて次のとおり基準日車を算出し、上記の基準日車等に合算する。

①各事項の未遵守計1件:初違反10日車、再違反20日車

②各事項の未遵守計2件以上:初違反20日車、再違反40日車

3. 点呼の実施違反

違反行為事項			初違反	再違反
点呼の実施違反 (点呼が必要な回数 100 回に対して)	未実施	未実施 19 件以下	警告	10 日車
		未実施 20 件以上 49 件以下	10 日車	20 日車
		未実施 50 件以上	20 日車	40 日車
	不適切	一部実施不適切	警告	10 日車
		全て実施不適切	10 日車	20 日車



違反行為事項			初違反	再違反
点呼の実施違反 ※1 (点呼が必要な回数 100 回に対して)	未実施 ※2	未実施 19 件以下	警告	10 日車
		未実施 20 件以上 当該違反について全運転者等に対して点呼を全くしていない場合は事業停止となることがあります。	1 日車× 未実施件数	2 日車× 未実施件数
	不適切 ※3	一部実施不適切	警告	10 日車
		全て実施不適切	10 日車	20 日車

※1 未実施と実施不適切とが混在する場合、基準日車等の大きい方により算定する。

※2 以下の場合は未実施とする。なお、点呼の実施については、点呼の記録によって確認するものとする。

ただし、運転者等に係る点呼について明らかに実施したことを事業者が書面等により証明した場合はこの限りではない。

- ・ 省令に規定される点呼事項が全く実施されていない点呼
- ・ 補助者の要件を満たしていない者が実施した点呼
- ・ 運行管理者、補助者の自己による点呼
- ・ 対面によらず電話その他の方法で実施(運行上やむを得ない場合を除く。)した点呼
- ・ 運行の業務の開始前に点呼を行わず、業務の開始後に行った点呼
- ・ 運行の業務の終了後に点呼を行わず、業務の終了前に行った点呼

※3 以下の場合は不適切とする。なお、点呼実施の確認方法は※1と同様とする。

- ・ 省令に規定される点呼事項のうち一部が実施されていない点呼
- ・ 実施不適切(未実施を含む)である点呼が、点呼が必要な回数 100 回に対して一部である場合は「一部実施不適切」、全部である場合は「全て実施不適切」とする。
- ・ アルコール検知器による酒気帯びの有無の確認をしていない点呼

事業者や管理者の皆様には、運転者に飲酒運転等に対する教育を実施していただいていると思いますが、飲酒運転は悪質な違反行為であること、飲酒が身体に及ぼす影響として「速度感覚の麻痺」、「視力の低下」、「反応時間の遅れ」、「眠気が生じる」など運転に多大な影響があること、体内のアルコールはすぐには消えないことを常日頃から指導することが重要です。万が一、飲酒運転に対する教育を実施せず飲酒運転事故等が発生した場合には、今回の改正で追加された処分対象となりかねません。各事業者の皆様には、国土交通省や（公社）全日本トラック協会が作成している「飲酒運転防止マニュアル」を活用のうえ、毎年一度は飲酒運転に対する社内教育を実施するようお願いいたします。また、アルコール依存症の危険性について認識させるためにも、マニュアル内に掲載されている“スクリーニング検査”を活用し個々の状態を把握する等、運転者一人一人とコミュニケーションを密にして、飲酒運転根絶に向けた管理徹底をお願いいたします。

不明な点は気軽に適正化指導員にお尋ね下さい。

群馬県貨物自動車運送適正化事業実施機関

電話 027-212-8821